

行田税務連絡協議会長賞 佳作

大阪万博と税について考える

加須市立騎西中学校

三年 秋山 咲良

私はこれまで税について深く考えたことがなく、自分にはあまり関係のないことだと思っていました。そんな時、ニュースで耳にしたのが「大阪・関西万博」です。私は最初、万博という言葉聞いても、「大きなお祭りみたいなものかな。」としか思っていませんでした。しかし、夏休みに姉と万博に行くことと決めたことで、「大阪・関西万博」について詳しく調べることにしました。

調べてみると、世界中の国々が集まって最新の技術や文化を紹介し合う大きなイベントだと知り、とてもわくわくしました。それとは裏腹に、この万博には我々が支払った税金が使われていると知り、とても驚きました。私はコンビニなどで商品を買った後によく、「消費税は何に使われているのかな。」と考えていました。このような税金が万博に使われていることに対して、最初は「もったいないのではないか。」と考えていました。なぜなら税金はお年寄りや病気の人々を助けたるものであり、万博にはあまり関係ないと思っていたからです。しかし調べていくにつれ、万博は未来の社会を考えるための大切な機会であることに気がきました。たとえば、世界各国の医療の進歩に触れることで、病気で困っている人々を今よりも多く救うことがで

きます。さらに、万博を開催することで外国からも多くの人が訪れます。それにより観光や地域の産業が活性化し、日本の経済状況が良くなります。つまり、我々が支払った莫大な税金は数年後には社会に戻ってくるのです。これらは全て、医療や教科書などに使われていると知り、普段何気なく支払っていた税金がとても貴重なものに感じました。

このことから、税金についての考えが大きく変わり、今では多くの税金を国のために納めたいと考えるようになりました。もちろん、「大阪・関西万博」という大きなイベントに税を使うことには反対の意見もあります。だからこそ、私たち一人一人が税の使い道を知り、関心を持つことが大切なのだと感じました。万博に行ったら、税についての考えをさらに深めることができるはずです。私は、税によって造られたこの万博を通じて、社会の一員として生きていく自覚を少しずつ持っていきたいと思います。